

- 1 派遣期日 平成27年12月4日（金）
 2 研修先 学校名（会場名） 東京都日野市立日野第三小学校
 所在地 〒191-0003 日野市日野台2-1-1
<http://www.e-hino3.hino-tky.ed.jp>

3 研修内容

研究主題 国語科授業のユニバーサルデザイン
 ～文学的な文章の読解を通して～

(1) 公開授業（各学級）

- ① 視覚化や動作化で文の内容を読み取る工夫 「かいがら」（東京書籍 1年）
 ・色をヒントに思考できるように挿絵カードと文カードの枠を囲っておく。
 ② 人物の登場する順序や行動を読み取る工夫 「サラダでげんき」（東京書籍 1年）
 ・挿絵を使って、人物の登場する順序を明確にする。
 ・登場人物行動表を提示することで、場面ごとの登場人物と、その行動を押さえる。

(2) 師範授業・講話

筑波大学附属小学校 桂 聖 先生

研究主題	国語授業のユニバーサルデザイン ー教材にしかけをつくる国語授業「10の方法」ー
------	--

1 題材名 詩を楽しもう

ーくどうなおこ「のはらうた」（光村図書4年下）ー

2 研究主題について

◆ 国語授業のユニバーサルデザイン（「指導の工夫」と「個別の配慮」）

◆ 教材のしかけをつくる「10の方法」

（拙編著『教材に「しかけ」をつくる国語授業10の方法』東洋館出版社）

- | | | | | |
|---------|----------|--------|-------|-------|
| ①順序を変える | ②選択肢をつくる | ③置き換える | ④隠す | ⑤加える |
| ⑥限定する | ⑦分類する | ⑧図解する | ⑨配置する | ⑩仮定する |

◆ 本提案授業における「教材のしかけ」

本提案授業におけるしかけは3つある。まず、詩の後半部の「語句を置き換える【しかけⅠ】」ことで、「感嘆詞、呼称表現、語尾」（文学特有の表現技法）や「人物像」（作品の設定）を確認する。次に、元の詩に続けて、「人物像の設定を置き換えた【しかけⅡ】」リライト詩を提示することで、表現の共通点や相違点、人物像の違いに気付く、詩をリライトする方法がイメージできるようにする。最後に「人物像の設定を仮定した【しかけⅢ】」センテンスカードを提示して、自分なりのリライト詩を書くきっかけをつくる。

3 本時の指導

- 目標 詩を比較して話し合うことを通して、人物像に着目する読み方や詩をリライトする方法がわかり、自分なりのリライト詩を書くことができる。

- 展開 （★指導の工夫【しかけ】）

- ① 「おれはかまきり」の前半と後半を比較して話し合う。

★詩の前半部と後半部を分けて提示し、後半部の変な語句について「なぜ変なのか？」を話し合う。その中で、自分の呼び方、語尾、人物像などを確認する。【しかけⅠ】

- ② 二つの詩を比較して話し合う。

★教師が作成したリライト詩を提示し、元の詩との共通点や相違点について話し合うことで、人物像の違いを確認したりリライトへの意欲を引き出したりする。【しかけⅡ】

- ③ 人物像の設定を変えて、詩をリライトする。

★「もしも〇〇（人物像）だったら、どんな表現になりそうかな？」と問い、人物像を仮定し、様々な表現を発表できるようにする。【しかけⅢ】

(3) 研究発表

- ①授業を焦点化する（シンプル）

ア 課題の共有

- ・授業の始めに挿絵の間違い探しを行うことで、授業で学習する場面を共有する
- ・地の文と会話文とに役割分担して音読に取り組ませることで、内容を想像しながら読む

イ 文学内容の確認

- ・登場人物が登場する順番を、ペープサートの並び替えで確認する
- ・センテンスカードの間違い探しを通して、内容に注目させる

ウ 論理の追求

- ・ペープサートで場面を図式化することで、場面の対比関係を明らかにする

②授業を視覚化する（ビジュアル）

ア 動作化により内容の理解を助ける

イ 劇化により内容の理解を助ける

ウ 写真により内容を理解する。

エ カードを整理して対比構造をつかむ

オ 心情の変化を図式化する

カ 中心人物の心情変化を図式化する

③授業を共有化する（シェア）

ア ペアで考えを交流する

イ ホワイトボードを使って考えを交流する

ウ 「訪ね歩き」で考えを交流する

エ 劇化しながら考えを交流する

オ ペープサートを配置して、考えを共有する

カ 板書を手がかりに考えを発表する

（４）講演「通常学級のユニバーサルデザイン プラン Zero」

星槎大学准教授 阿部 利彦 先生

教育におけるユニバーサル・デザインとは

「より多く」の子どもたちにとって分かりやすく、学びやすく配慮された教育のデザイン

子どもを支える教育における３つのユニバーサルデザイン

①授業のユニバーサルデザイン化

②教室環境のユニバーサルデザイン化

③人的環境のユニバーサルデザイン化

□ひきつける（視覚化）…子どもたちの特性を理解するとより効果的な視覚化ができる。
注意がそれやすい子

- ・ 動くものにひきつけられる…フラッシュカード → ・ 小出しにする →
- ・ 選択肢を用意する → ・ ワークシートの活用

□むすびつける（視覚化・焦点化）

□方向づける（焦点化）

気になる児童・生徒がたどりついたかを見届ける。

□そろえる（共有化）

→ペアで学習し、話し合うと、一人で考える時より、多くの情報を獲得できる。

（集中力のない子はグループよりペアが効果的）

×「二人でどちらかいい方の答えを言いなさい」はダメ。組み合わせも大切。

□「わかった」と実感させる→達成感・満足感

ADHD の子が…「えっ？もう終わり？」

ASD の子が…「えっ？チャイムなったの？もっと考えたかった」

UD 成功

4 感想

- ・ 特別支援学級を参観させてもらったが、授業における児童それぞれの学びにくさと個別の配慮が考えられた展開がなされていた。個別にホワイトボードが配られ、挿絵や文カードを並べ替え、ペアで考えを共有したり、動作化により登場人物の行動を共有したりしていた。教科書ではなく、独自に作成した段落ごとの教材文や個別に配慮されたワークシートも参考になった。師範授業では、参考になった発問や投げかけがたくさんありました。